

令和5年度全国学力・学習状況調査 結果分析【津市詳細版】

1 調査の概要

- (1) 調査の目的

津市教育委員会及び学校が、学習指導要領で育成を目指す資質・能力の獲得状況について全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立します。

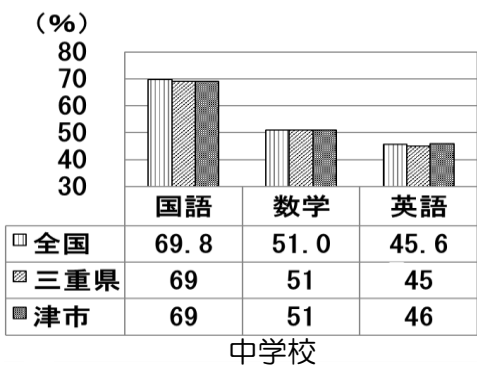
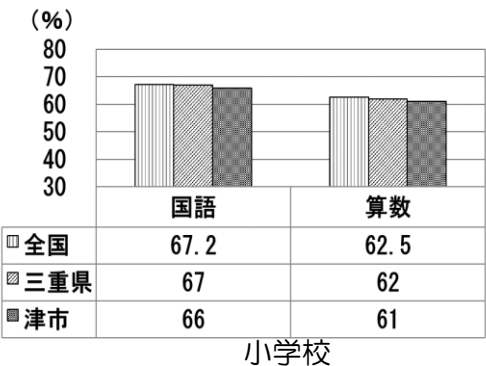
市内のすべての学校が、各児童生徒の学力や学習状況をより客観的に把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てます。
- (2) 実施日

令和5年4月18日（火）
- (3) 調査実施人数(津市)

小学校第6学年児童 約2,070人
中学校第3学年生徒 約2,020人
- (4) 調査内容

国語、算数・数学、英語、質問紙調査

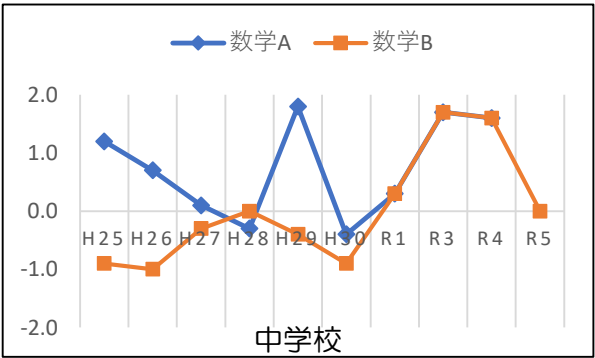
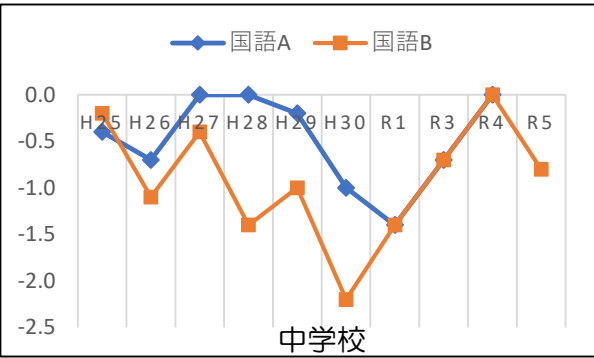
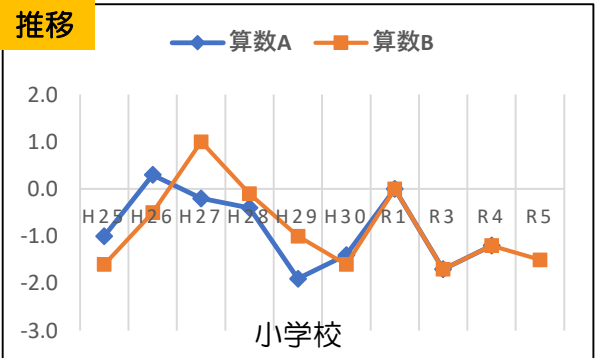
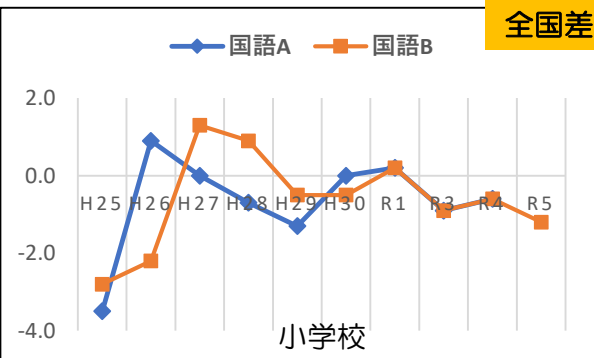
2 平均正答率



3 平均正答率推移

小学校		平成30年度		令和元年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
		本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国
国語	A	71	70.7	64	63.8	64	64.7	65	65.6	66	67.2
	B	54	54.7								
算数	A	62	63.5	67	66.6	68	70.2	62	63.2	61	62.5
	B	50	51.5								
理科		58	60.3					62	63.3		

中学校	平成30年度		令和元年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国
国語	A	75 76.1	71 72.8		64 64.6		69 69.0		69 69.8	
	B	59 61.2								
数学	A	66 66.1	60 59.8		59 57.2		53 51.4		51 51.0	
	B	46 46.9								
理科		65 66.1					49 49.3			
英語									46 45.6	



4 各教科 全国より正答率が低い問題やとその対応策について

「漢字の書き」は、小学校でも全国より正答率が低い結果となりました。書き取り中心の学習からの転換が求められます。

小学校

国語

32 (正答率67.2% 全国差▲3.0 無回答率15.2%)

目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうか

【第5・6学年 思考力、表現力、判断力等 A 話すこと・聞くこと】

目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることに課題があると考えられます。

学習指導に当たっては、相手が自分に伝えたいことや、自分が求めている情報などを明確にして聞くことができるように指導することが重要です。インタビューをする前に、自分が知りたいことや疑問に思っていることなどを整理したり、答えを予想したりしておくことも考えられます。その際、インタビューの進め方を友達と確認し合いながら吟味していくと効果的です。インタビューをする際には、自分が知りたい内容に関する言葉を取り上げ、更に質問しながら理解を深め、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめていけるようにすることも大切です。

参考：国立教育政策研究所 報告書（小学校 国語）P58から61

算数

2(4) (正答率14.9% 全国差▲5.9 無回答率3.7%)

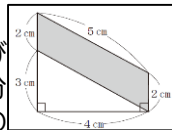
高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうか

【第5学年 B 図形】

「高さが書かれていないため、4の面積を比べることができない」という誤答が多く、文章や図から必要な情報（高さが等しいこと）を読み取ることに課題があると考えられます。

授業では、右図のように、図から必要な情報を自ら選び取る活動を取り入れ、図形の面積を求めるためにどの部分の長さが必要であるか判断する力の育成をしたり、高さの具体的な長さが与えられていなくても、等積変形などによって底辺と高さがそれぞれ等しいときに面積が等しいことを説明する活動を取り入れ、公式の理解を深めたりすることが大切です。

参考：国立教育政策研究所 報告書（小学校 算数）P47から57



中学校

国語

32 (正答率38.9% 全国差▲5.0 無回答率11.4%)

文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうか

〔第2学年〕知識及び技能 (1) ウ

「押」と誤答している解答が多く見られました。「推し量る」という言葉になじみがないなど、文脈に即して「おし」の意味を捉えることができず、同じ訓をもつ「押」と書いたものと考えられます。

学習指導に当たっては、漢字の指導において、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を読んだり書いたりすることができるよう指導することが大切です。また、文章の中ばかりではなく、「A話すこと・聞くこと」の学習の中や、他教科等の学習や日常の会話の中でも漢字の書きについて意識するよう指導することが大切です。さらに、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣とを養うことも大切です。その際、必要に応じて辞書を引くことを習慣付けることが有効です。

参考：国立教育政策研究所 報告書（中学校 国語）P51

数学

5 (正答率39.7% 全国差▲6.4 無回答率10.1%)

累積度数の意味を理解しているかどうか

【第1学年 D データの活用】

「0.1」と誤答している解答が多く、累積度数を相対度数と捉えるなど、累積度数の意味の理解に課題があると考えられます。

学習指導に当たっては、データの分布の傾向を捉える活動を通して、累積度数の必要性和意味について理解できるように指導することが大切です。「この大会で30秒未満の記録の選手に県大会出場資格が与えられるとき、何人が県大会に出場できるか」について累積度数を用いて、出場人数を判断したり、「コマAとコマBの二つのコマのうち、より長い時間回るコマを選ぶ」ための判断の根拠の一つとして代表値や累積度数などの指標を用いたりする活動を通して知識を定着させることが有効です。

参考：国立教育政策研究所 報告書（中学校 数学）P30から32

英語

7(1) (正答率57.8% 全国差▲2.0 無回答率0.4%)

文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうか

(2) (正答率33.5% 全国差▲1.2 無回答率0.7%)

日常的な話題について、短い文の要点を捉えることができるかどうか

文と文との関係を正確に読み取ることや、短い文章で構成されたまとまりのある英文を読んで、概要を捉えることに課題があると考えられます。説明文を読んで概要を捉えるためには、段落内の文と文との関係を読み取りながら、各段落の主な内容を捉えることが重要です。

学習指導にあたっては、短い説明文やエッセイ、物語などのまとまりのある英文を読んだ上で、時系列に情報を整理したり、書き手が伝えたいことの大まかな内容などを把握したりする活動や、物語文や説明文、会話文などのまとまりのある英文を読む際に、それぞれの情報の関係を示す接続詞に注目させながら文章の流れを理解したり、キーワードを拾い全体としての内容を数文の英語でまとめて話したり書いたりする活動が考えられます。

参考：国立教育政策研究所 報告書（英語）P31から33

5 児童生徒質問紙について

※数値は肯定的回答の割合

※「★」は昨年度にはなかった質問

(1) 学習の理解度等

質問番号	質問事項	津市	県	全国	全国差	R4津市との差
小45	国語の授業の内容はよく分かりますか	85.6	86.1	85.7	▲ 0.1	1.6
中49		82.6	83.3	80	2.6	1.6
小43	国語の勉強は好きですか	58.9	57.2	61.5	▲ 2.6	▲ 1.4
中47		62.3	60	61.4	0.9	1.0

質問番号	質問事項	津市	県	全国	全国差	R4津市との差
小53	算数・数学の授業の内容はよく分かりますか	82.4	83.3	81.2	1.2	0.2
中57		77.3	79.1	73.3	4.0	▲ 5.2
小51	算数・数学の勉強は好きですか	62.5	62	61.4	1.1	▲ 1.5
中55		55.9	59.8	56.7	▲ 0.8	▲ 7.3

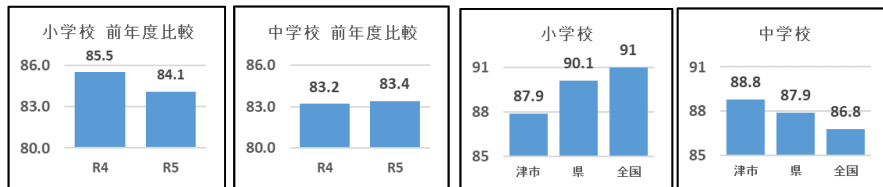
質問番号	質問事項	津市	県	全国	全国差	※全国学調では中学校で令和元年度に実施されて以来、4年ぶりの実施
中61	英語の授業の内容はよく分かりますか	69.5	67.6	63.9	5.6	
小55		68.7	68.6	69.3	▲ 0.6	
中59		52.4	51	51.9	0.5	

上記質問に肯定的な回答をした児童生徒ほど、正答率が高い傾向にあります。児童生徒一人一人が学ぶ楽しさ・わかる喜びを実感し、基礎的・基本的な知識・技能の定着や、思考力・判断力・表現力等の育成が図られるよう、各校においてPDCAサイクルを確立しましょう。

(2) 幸福感、自己有用感等

12 学校に行くのは楽しいと思いますか。

15 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか (★)



「学校に行くのは楽しいと思いますか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」について肯定的に回答している児童生徒は正答率が高い傾向にあることがわかりました。

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に加え、児童生徒一人一人を大切に学級経営等も重要となります。

(3) ICTを活用した学習状況

質問番号	質問事項	津市	県	全国	全国差	R4津市との差
小30	学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	95.3	95.4	95.1	0.2	▲ 0.1
中34		93.5	94	93.3	0.2	1.2

ICT機器の使用頻度を答える質問では、小・中学校ともに肯定的な回答をする児童生徒の割合が全国を大きく上回りました。ICT機器の効果的な活用に関する質問に関しても、肯定的回答の割合が高くなっています。学校全体で授業改善の方向性を共通認識し、多くの学校が取組を進めていることがわかります。今後も、より一層ICT機器の効果的な活用について考えましょう。

(4) 学習習慣・読書習慣

質問番号	質問事項	津市	県	全国	全国差	R4津市との差
小16	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)	68.0	68.7	70.7	▲ 2.7	▲ 2.3
中16		58.0	58.1	55.0	3.0	▲ 5.0

質問番号	質問事項	津市	県	全国	全国差	R4津市との差
小20	授業時間以外に、1日あたりどれくらいの時間、読書を読みますか(10分以上と回答している子どもたちの割合)	58.2	57.2	60.0	▲ 1.8	▲ 0.1
中20		43.5	44.7	49.4	▲ 5.9	2.1

家庭での学習時間及び読書の習慣と正答率との間には、相関関係がみられました。

児童生徒一斉に同じ課題を提示し宿題として取り組ませることに加え、発達段階に応じて、児童生徒に自らの学習状況を分析させ、計画的に家庭学習に取り組ませるなど、指導を工夫することが重要です。また、授業と関連した本を教室に置いたり、図書館司書と連携し学校図書館の利用を促進したりするなど、児童生徒が本と出会う機会を計画的に設けましょう。

ポイント 教育とウェルビーイング

ウェルビーイングとは、身体的・精神的・社会的に良い状態にあることです。これまでも、「自己肯定感」「自己実現」等について児童生徒質問紙において調査分析されてきましたが、今年度は新たに、「友達関係に満足していますか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」(幸福感)、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」(社会貢献意識)等のウェルビーイングの要素と関わる質問が追加されました。

6 主体的な学習・対話的な学習

(1) 児童生徒質問紙の結果

主体的な学習

質問番号	質問事項	津市	県	全国	全国差	R4との差
小33	これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	78.6	79.1	78.8	▲0.2	2.9
中37		81.3	81.6	79.2	2.1	▲1.2

対話的な学習

質問番号	質問事項	津市	県	全国	全国差	R4との差
小36	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	83	81.4	81.8	1.2	4.5
中40		80.4	79.9	79.7	0.7	2.6

昨年度から、市内全校にて重点的に取り組んでいる項目です。

学校質問紙において肯定的な回答をしている学校では、児童生徒質問紙においても肯定的な回答をしている傾向がみられました。また、肯定的な回答が多い学校では、主体的・対話的な学習の実現に向け、学校全体で取り組んでいることがわかりました。ある学校では、校長先生が授業を見て回り授業者に還元したり、校内研修会等で目指す授業のあり方を共有したりする等、日々の授業改善を行っています。

(2) 学校質問紙の結果

主体的な学習

質問番号	質問事項	津市	県	全国	全国差	R4との差
小26	調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていますか	90	88.6	88.9	1.1	2.2
中26		85.7	90.2	88	▲2.3	▲9.5

対話的な学習

質問番号	質問事項	津市	県	全国	全国差	R4との差
小29	調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	80	81.1	83.4	▲3.4	0.4
中29		81	86.9	86.2	▲5.2	▲9.5

7 今後の改善方策について

(1) 自校の分析について

各教科の分析は、国立教育政策研究所が作成している報告書が拠り所となります。報告書には、調査の概要や調査の結果、各問題の分析結果と課題、授業アイデア例が掲載されています。調査結果から自校の成果と課題を把握し、授業改善に役立てましょう。下記QRコードから報告書掲載のサイトにアクセスできます。

本問全体の学習指導に当たって
授業アイデア例

授業アイデア例

「学校ボランティアの人たちを紹介するためにインタビューをしよう」 ～話し手の目的や自分が関心とする意図に応じて、話の内容を捉え、自分の考えをまとめる～ 目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることに課題が見られました。そこで、本授業アイデア例では、一人一人が考える場面と、グループで話し合う場面を行き来しながら指導することで、話の内容を捉え、自分の考えを広げたりまとめる指導事例を学習の流れに沿って紹介します。		（実施対象学年） 第5・6学年
①/7	学校全体の課題を設定する ◇ 教師は、年間指導計画等を基に、本単元で重点的に取り上げる指導事項を明確にし、児童の実態を踏まえながら、単元の目標を実現するために適した言語活動や話題を想定します。	
指導事項 （思考力、判断力、表現力等） 「A話すこと・聞くこと」の「エ 目的に応じて話の内容を捉える」ことについて重点的に取り上げて定着を図ろう。	言語活動 目的をもって特定の相手に質問し、必要な情報を聞き出すには、インタビューがぴったりだ。	話題 ・身近な話題であるか ・児童に経験があるか ・課題解決の見通しがあるか （例） ・地域のお店 ・まちで働く人 ・委員会やクラブ活動



(2) 理解と定着に向けたPDCAサイクルの確立

